

# 即興型ディベート

---

## 研究報告集

*Research Report of PDA Conferences*

ホテルコスモスクエア国際交流センター

2017年8月10日（木）



一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

*Parliamentary Debate Personnel Development Association (PDA)*

# 目次

## 【即興型ディベート研究報告集】

No.1           はじめに ～即興型英語ディベートの授業導入の広がり～

大阪府立大学 工学研究科 中川智皓

No.2           高2 Team Teaching 授業での英語ディベート実践

筑波大学附属駒場中・高等学校 須田 智之 教諭

No.3           3年私文選択英語に即興型ディベートを導入して

長野県松本県ヶ丘高等学校           池上 博 教諭

No.4           即興型ディベート研究報告

岩手県立盛岡第一高等学校           水澤 雄次 教諭

No.5           “Yes, and” から始めるディベート導入

立命館守山高等学校           由谷 晋一 教諭

## はじめに

### ～即興型英語ディベートの授業導入の広がり～

大阪府立大学 工学研究科 中川智皓

(一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA) 代表理事)

毎年夏に行っております全国高校 即興型英語ディベート合宿・大会は、今年度で4回目の開催となります。第1回から参加された高校生が大学生になり、即興型英語ディベートで身につけた力を活かし、今度はスタッフとして参加するなど、歴史を感じられるイベントになりつつあります。

即興型英語ディベートは、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの総合的な力が同時に身に付きやすいシステムです。本取り組みを知り、共感を持ってくださる先生方が増え、校長会等を中心にPDA地域交流大会も活発になってきました。首都圏（都立西、日比谷、県立浦和、浦和一女、湘南、船橋西ほか）、関西圏（北野、堀川、膳所、奈良、神戸ほか）、青森県7校、長野県6校、神奈川県18校、京都府などでPDA地域交流大会が開催される運びです。

今年度、PDAでは、文部科学省平成29年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業（即興型英語ディベートの指導者育成に関する研修開発と評価制度構築）に採択されました。神奈川県をはじめとする教育委員会と連携し、即興型英語ディベートを用いた教員研修、PDA認定教育ジャッジの育成を行っています。PDA認定教育ジャッジとは、主に中学・高校の授業で使用されるパーラメンタリーディベート（即興型英語ディベート）のフォーマットのもと、教育的な指導ができる認定ジャッジのことです。受験には、ディベートを6回以上、ジャッジを6回以上（内、3回以上をPDA公認の授業現場において実践）の実践経験が必要となります。試験内容は、1. 筆記試験、2. ディベート実技、3. ジャッジ実技となります。次期学習指導要領では、「論理・表現」という新科目案もあがっており、ディベート、ディスカッションといった言語活動も考えられています[1]。今後、授業においてもディベートを指導できる教員が求められてくると考えられます。本合宿がその学びの一助となりましたら幸甚です。

本PDA全国高校 即興型英語ディベート合宿・大会2017および研究活動について、以下、多くのご支援、ご協力をいただきました。関係各位に心より感謝申し上げます。  
子どもゆめ基金、公益財団法人 日本財団、文部科学省、大阪府立大学 ほか

※ここでは、パーラメンタリーディベートを通常授業（50分）に導入できる形式にアレンジしたものを、なじみやすい・理解しやすい表現として、即興型英語ディベートと呼んでいます。

[1] 文部科学省ウェブサイト、中央教育審議会教育課程企画特別部会（第19回）配布資料より

## 高2 Team Teaching 授業での英語ディベート実践

須田 智之

筑波大学附属駒場中・高等学校

### (1)はじめに

本校（東京都世田谷区，国立大学附属男子校，160名/学年）では，高校2年次の授業（ネイティブ講師とTeam Teaching，週1時間）において、英語ディベート（PDAフォーマット）を中心に授業を実施している。筆者は3年連続で当該授業を担当し，授業内容のバージョンアップを図っている。

### (2)実践内容

1学期には4回のラウンドを実施した。導入に際しては，モデルディベートの音読練習による対戦の流れの確認や，PMとLOのスピーチを聞かせジャッジ用のフローシートを記入させるなどを実施した。チェアパーソン・ジャッジも生徒達にやらせ，PM・LOのスピーチ原稿を書かせるなどライティング指導も並行して行っている。6/16（金）には神奈川県から20名の先生方が授業見学に来校，2～4限の3クラスを見学して下さった。また，4時間目には各テーブルのジャッジも務めて頂いた。



図1 1学期授業の様子

### (3)まとめ

昨年度1学期末に実施したアンケートの結果では，英語ディベートによるリスニング・スピーキング力の伸長の実感はあるものの，文法知識の定着には効果が薄いと生徒達が感じていることが分かった。前述のライティング指導の導入による生徒達の意識変化を調査したい。日本のEFL環境では英語を使用するチャンスが圧倒的に少ないため，英語ディベートの授業導入の必要性があると思う。授業外でも，生徒向けの英語ディベート交流会など，英語コミュニケーションの機会を提供していきたい。また，教員対象の講習会・練習会を月1のペースで実施し，即興型英語ディベートの普及活動にも取り組んでいる。

## 3年私文選択英語に即興型ディベートを導入して

池上 博

長野県松本県ヶ丘高等学校

### (1)はじめに

3年の私立文系コース（理科・数学を履修しないコース）の英語選択講座を担当して3年目を迎える。「英会話」という選択科目名から、当初より英語ディベートを導入した。初年度は全国高校生英語ディベート(HEnDA)形式の簡略版で始めたが、PDA形式に出会いそれ以来PDA形式で実施している。私立文系コースは地方の一般的な公立高校にあっては、数学、理科を不得意とし、よって国立大学受験をあきらめた生徒が多数を占めるコースである。（一部、東京難関私大をめざす生徒もいる）それゆえに偏差値的には低位(40前後)に位置する生徒も多い。

### (2)実践内容

私立文系コースを選択した生徒は必修。初年度 12 名、2 年目 15 名、今年度 21 名。純粋な PDA 方式（15 分の準備、15 分のディベート、15 分の Reflection）と準備型ディベート（全体で資料を英文で読み、1 時間の準備時間、同じ論題で 4 試合、肯定・否定側を PDA 方式で行うディベート）を併用する。今年度は週 2 時間は ALT 2 名が参加可能なので、6 チーム、3 試合を同時に開催することが可能。よって、これまでより多くのディベートをこなしている。

【第 1 回考査～5 月 18 日】

1. 定年後は田舎で生活 2. ファーストフード禁止 3. 投票の義務化 4. 宿題廃止 5. 沖縄の独立

【第 2 回考査～7 月 3 日】

6. 朝食には和食を 7. ペットにはロボット犬を 8. 夏に行くなら海へ 9. 地毛証明書禁止 10. 死刑制廃止

過去 2 年間は前半は出席状況、英語テストの結果をみて、チームの均等化をはかり、後半はくじ引き、前回の定期テストによる配分など、チームを組み替えた。今年は男子チーム 2、女子チーム 2、混合チーム 2 で固定。チームを変えないことでチームワークがよくなり、また、休みも少ない。4 試合は 4 つの異なったチームと対戦し、肯定、否定をそれぞれ 2 試合行う組合せ表を使用。これを 1 クールとして、チーム順位を出し、優勝チーム、ベストディベーターを表彰している。また、ALT の来られない授業では 3 試合を連続して行い。試合のない生徒全員がフローシートの提出を義務づけたジャッジを行う。

### (3)まとめ

私立文系コースは文系が得意と言うより数学、理科が不得意なために消極的に選択した生徒も多い。中学では少なくとも中の上に位置した生徒も高校入学後は英語に対する自信、意欲をなくした生徒も多い。ディベート活動はそうした生徒に中学時代の「英語が好きだった」自分を思い出すよい機会となり、授業を重ねる度に発表の声も大きくなり、生き生きとディベートを楽しんでいる。

## 即興型ディベート研究報告

水澤 雄次

岩手県立盛岡第一高等学校

### (1)はじめに

本校はスーパーグローバルハイスクールの指定を受け、平成29年度で3年目となる。英語の授業がさらにコミュニケーションなものとなるように、月平均1度、何かしらのパフォーマンステストを行っている。音読（暗唱）テスト、リテリングテスト、プレゼンテーションテスト、タイピングテストの他に、ALTとのチームティーチングの時間を利用し、英語ディベートも実施している。定期考査にもディベートの手法を取り入れている。

### (2)実践内容

一年次の指導では、どのように論題を作るか、どのように反論するかを指導した。数回の練習試合を行った後に、まとめとしてディベートテストを行った。50分授業の中で全ての生徒が行えるようにするため、1試合は15分程度で終わられる内容（教員3人配置）とした。（一年次は2度実施）

2人（肯定側）対2人（否定側）で行う。どちらの立場にするかは当該ペアで決めることができる。試合開始の約7分前に論題を与える。論題例としては「盛岡一高は英語の授業時数を減らすべきだ」「高校生は全員ボランティアを義務付ける」といった、生徒がすぐに何らかの考えが思いつくようなものになっている。

立論は2分以内に2つの理由を挙げることとし、アタックも2分間で相手の理由にそれぞれ一つずつ反論することとしている。反論できるようにするために、相手の主張をメモすることの大切さを強調した。立論の後に質疑の時間を設けているので、聞き取りが不十分である場合はここで確認することができる。

評価は、立論と反論時にそれぞれ2つの点について明確に伝えられたかどうかと、ペアで協力して立論と反論を考えたかどうか、2つの基準のみとし、勝敗が評価に影響することはない。

定期考査においても、論題について立論を作成すること、相手側の立論を読みそれについて反論することを課した。立論と反論で合わせると150～170語程度の語数を要求した。

### (3)まとめ

やればやるほど、生徒たちは即興ディベートの楽しさを味わっているようだ。論題をできるだけ社会的なものにしたいが、そうすることによって英語ではなく知識不足により考えが浮かばないこともある。教師側としては、生徒達が議論したくなるような話題であり、かつ社会的なものを提供する必要がある。生徒のパフォーマンス後の様子を見ると、うまくいった生徒の達成感とうまくできなくて悔しがる姿の2つがある。どちらに対しても上手にフィードバックを行い、生徒の関心意欲態度を高めたい。それによって表現力は増すと考える。

これまでは学校独自のスタイルで英語ディベートを行ってきたため、本研修で様々なことを学び、生徒に還元したい。二年次においては、夏季休業明けに一回目、冬季休業明けに二回目のディベートテストを行う予定である。

# “Yes, and”から始めるディベート導入

由谷 晋一

立命館守山高等学校

## (1) はじめに

本校は、滋賀県守山市に位置する立命館大学の附属中高一貫校である。高校二年次の総合学習「Global Studies」（隔週4時間、NT・JT 2時間ずつ、選択35名）において、即興型ディベートを導入した。その際、まずは即興演劇を応用して、Yes, and（相手の表現を受け容れて、それに対して自分のアイデアを付け加えること）の精神に基づくアクティビティを行ったうえで、ディベートを導入することにした。

## (2) 実践内容

### 第①②回 Yes, and に基づくアクティビティ（図1）

- Name Action（各自ニックネームに動きをつけ、それを全員でリピートする）
- Do you remember?（ペアで一緒にどこかへ行ったという記憶を創り出す）
- Yes, let's!（ペアで一人が提案したことを受け容れ、相手が提案を付け足す）
- One word at a time（グループで一人一語ずつ発話して、物語を紡ぎ出す）
- 即興劇的Before After（教科書にある物語の二場面を即興的に演じる）



図1 即興劇

など

### 第③回 PDA スタイル即興型ディベート導入（図2）

『授業でできる即興型英語ディベート』を参考に1時間目に説明、2時間目に実践を行った。生徒たちの反応は以下の通りである。交流を通して思考が深化する実感や成長の予感を持ち、ディベートが協働的、創造的なものだと感じている様子が分かる。

- 討論をくり返すことにより互いの意見を知り、思考を深めていくことができました。
  - 相手の意見に反論したりしていくのを聞くのは、色々な意見があって面白かったです。
  - 意見を言っても、なかなか相手に伝わらなかったり、うなずいてくれたりしてくれなかったので、悔しかった。でも、この「相手に伝わらないもどかしい感覚」を体験することで次のディベートにつながるものと思った。
- 振り返りシートから（下線は筆者による）

## (3) まとめ

即興演劇を応用した Yes, and に基づく活動を橋掛かりとしてディベートを導入するなかで、生徒はその先に協働的な創造があることを実感しつつあるのではないかと感じている。今後も、このような取り組みを継続したい。



図2 ラウンドの様子

---

即興型ディベート研究報告集 PDA17-1

発行日 2017年8月10日

発行所 一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

大阪府堺市中央区学園町1-1 大阪府立大学 工学研究科 機械工学分野 中川研究室内